の景天（本草綱目）其莖を採て日乾し、年を經てこれを栽れば復活す、馬齒莧（同上）は採て檐間に懸、日を經て枯萎せず、此二品莖に水銀を含が故なり、

〔重修本草綱目啓蒙（二十四喬木）桐（略）〕中

集解、桐、トウギリ　ヒギリ　此ノ木ハ、暖地ノ產ナル故、甚寒ヲ恐ル、因テ冬ハ窰ニ入ル、春ニ至リ、木ヲ數段ニ切リ栽ルモ生ジ易シ、高サ一二尺、葉兩對ス、形圓ニシテ末尖リ、邊ニ鋸齒アリ、大ナルモノハ一尺許リ、夏月莖梢ニ長穗ヲ出シ、枝ヲ分チ、多ク花ヲ開ク、臭梧桐花ニ似テ、瓣蕚共ニ朱ノ如シ、秋ニ至ルマデ長ク開ク、故ニ百日紅（癸辛雜識同名多シト云フ）、

〔剪花翁傳（前編三五月開花）〕唐桐　花極緋、英攢簇て房をなせり、開花五月より飛咲して漸々咲出し、七月末迄あり、育方隨意なり、盆栽にして可也、

〔地錦抄附錄（三）〕延寶年中渡品々

唐桐（今云ニ緋桐）

〔重修本草綱目啓蒙（十三毒草）〕常山（略）中

集解、頌曰、海州出者葉似ニ楸葉、是海州常山ニシテクサギナリ、コノ木人家ニ多ク自生ス、高サ丈餘、枝葉繁茂ス、葉ハ圓ニシテ尖リ桐葉ノ如ニシテ小ナリ、兩對ス、斷レバ甚臭氣アリ、夏秋ノ間枝頂ニ花アリ、形瓶桐ノ花ニ異ナラズ、瓣ハ五ツニシテ白色、蕚ハ赤色、後ニ圓實ヲ結ブ、大サ南燭子ノ如シ、生ハ綠色、熟ハ碧色、用テ縹ヲ染ベシ、一名臭梧桐（群芳譜）百日紅（同上）豫州ニテクジウト云、仙臺ニテトウノキト云、石州ニテクサギナト云、享保年中ニ蜀漆ノ種渡ル、本邦ノクサギニ異ナラズ、故ニ蜀漆ニハ海州常山ノ苗ヲ用ユベシ、

〔倭訓栞（中編十九）〕はたつもり　令法をいふ、木の名也といへり、はたつもりとも云、遠州にぎやうぶ、播磨にれうぼといふ、民間葉をむして食の助とす、

山茱科